校長先生の部屋だより

哲学ルームだより

この「哲学ルーム」は、生徒、先生の区別なく、共に学校スローガンである「人間を学ぶ」空間です。

今回は「蝉と人間はどちらが幸せか」です。問いの背景は以下のとおりです。
　芭蕉の句に「やがて死ぬ　けしきは見えず　蝉の声」というのがあります。「やがて」とはすぐに、という意味です。蝉は一生懸命生き、一生懸命死んでいく。迷いはありません。それに比べ、人間は「自分」という言葉をもったが故に、すべてを自分から始めなければならない。自分の意識を一歩も出ることが出来ない。そうしてすべての意味づけを自分がしなければならない。そこに「自我」の抱える不安、孤独、無意味があります。それは底なしに深い穴を覗くようなもので、人間はそれを直視できずに、何らかの仕方で自己存在を確認し、つながり、意味づけをします。しかしそれはいつかは必ず崩れます。例えば別れというような仕方で。何故人間はこんな悲しい思いをしなければならないのか。ならば蝉の方が幸せな生き方ではないか。

―君は人間の方が幸せだというのだね。どうして？
A：生物は命を無意識に生きているだけです。それに対し、人間は意識し、考えているからです。人間は言葉をもち、それによって宇宙の果てまで考えることができます。

―でも、自分を出発点として考えるから、自分を支えるものが何もないといった不安や孤独、無意味を抱え、それだから何かで自己存在を確認したり、つながったり、意味づけしたりしているけど、最後はとても悲しい思いをするんじゃないか？
A：悲しみも喜びなんです。

―どういうこと？
B:悲しみは悲しみでなくなることによって、つまり喜びになることによって、悲しみになる、ってことじゃないですか？

―え？
C：僕は人と話をしていないと寂しくて泣いちゃうんです。

―だからさ。蝉の方がいいじゃない？人間はほんとに悲しいよ。
A：蝉は存在しているだけです。それに対し、人間は存在していることを認識しています。だから人間の方がランクが上です。

―でも、それでとても悲しい思いをするんだったら、やっぱり蝉の方がよくない？
B：例えば家族を失って悲しい思いをするって言うことは、家族の大切さが分かるってことだと思います。

―大切さが分かれば一層悲しいじゃないか。
C：蝉は繰り返しに過ぎません。でも人間は違います。エジソンのような人がでてぼくたちの生活が便利になりました。蝉の生活が便利になることはありません。

―そりゃ、エジソンみたいな人限定だろう。その他の人はみな忘れ去られていく。その点では蝉といっしょでは？あ、時間だね。次回が哲学ルームの最後だよ。